

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「これから児童会選挙をおこないます。副会長二名、書記二名はすいせんにより選出され決定しましたので、本日は会長選挙のみ行います。わたしたち一人ひとりがユウケン者です。最後まで演説を聞いて、わたしたちの代表を選出しましょう。では、児童会長選最終演説会をはじめます。最初に五年一組、牧野世志君。お願いします。」

「はい。」

牧野は **A** 立ちあがると、ひとつ小さく深呼吸をして背すじをのばした。軽くあごをひいて足をふみだす。

演台を前にして立つと、牧野は左から右へ、体育館にいるひとりひとりの顔を確認するように視線を流した。

しずかだけど強い、キレイだけどするどい。牧野はそんな目をしている。両手を演台に乗せて、気持ち上半身を前にかたむけた。

「五年一組 牧野世志です。」

牧野の第一声。それまでざわついていた館内が一瞬にしてシンとした。

だれもが牧野を見つめ、息を飲んだ。

十分間。スピーチのあいだ中、館内はシンとしていた。

「ぼくたちにはいまいちばん大切なのは、夢を持つことです。」

牧野の話し方ははっきりとしてわかりやすい。それでいて説得力がある。スピード感のある力強い口調からゆったりとやさしい調子にかわつたと思つたら、うねるように投げかけてくる。

ことばに色がある。動きがある。生きものみたいに温度がある。

「夢におかたつて歩いていくためには、なにが必要か？ ぼくは一人ひとりが目標をもち、学び、自分の足で立つ。自立することこそ大切だと思つています。」

全校集会の時は五分だっけしずかになんかしていないのに、その倍の時間、牧野はよゆうで聞かせることができる。

「いま、ぼくらの学校にはこれからの時代に欠かせないコンピューターや外国語を学ぶカリキュラムがあります。また、職場サンカンやボランティア活動など地域との交流活動をおしてさまざまな経験の場が準備されていますが、もっと積極的におこなっていききたいと思っています。いま、なにをすべきか、なにを学ぶべきか。しっかり考えてリーダーシップをもって提案し、ぼくらの学校作りをしていききたいと思っています。」

原稿には、ほとんど目を落とさなかった。

するどくつきさすようなまなざしが、スピーチを終えたとたん、やさしい色にかわった。女子の黄色い声が館内のあちこちでひびき、はしに立っている先生たちも心底感心したみたいになぜかしている。

演台の上においた原稿用紙をもって、一歩さがり、頭をさげると、体育館のなかは **B** わいた。  
かっこいい……。

思わず見とれていると、牧野は **C** 鼻でわらった。

うわっ、やっぱやなやつ！

「つづいて五年二組、よこやまらいた横山雷太君お願いします。」

え、マジで？ **②** こんな空気のなかでスピーチすんの？

なんだろこのアウェーな感じ。

ホームなのにアウェーって、マジみじめ。

「横山君。」

「は、はい。」

バン！ イスをひっくりかえした。

「おちつきねー。」

どこからかヤジがとぶ。

すみのマイクの前で、成見なるみががんばれ！ と小さくこぶしをゆらした。

イスを起こして、すーっ、はー、と大きく深呼吸をして演台におかう。「ア」

(中略)

ゆっくり、Zを描くえがように館内を見わたして息をすいこんだ。

「どうもー。」

**D** わらいがもれた。

「児童会長に立候補した横山雷太です。正直いっちゃうと、ぼくは児童会長っていうものにはまったく、さらさら、これっぽっちの興味も関心もありませんでした。だって児童会長なんてやったら、放課後も学校に残ってセンセーの手伝いをしたり、行事の企画きかくやらなんやらやんなきゃいけないし、そーゆーのってめんどくさいなって思っていたんです。あ、いまもめんどくさいとは思っていませんけど。」

③ ざわめきがおきる。

「そんなぼくが立候補したのは、ある人にすいせんされたからです。その人は、学校をかえてみないかといいました。ぼくはその人のことを正直、頭おかしいんじゃないかって思いました。」

ドッとわらいがおきた。「イ」

心配そうにしている仁田にったと良介りょうすけのそばに優ゆうがからだをちぢめて近づいていくのが見えた。

「雷ちゃんなにあってんだろ？」

「テンパっちゃったか……。」

「ううん。雷太は大丈夫。だいじょうぶ視線の送り方も間のと리카たもこれまでどおりだもん。」

⑤ 優が楽しげな顔をしてうなずく。

「けど、その人はまったくの本気、大まじめでいったんです。だからって、ぼくにはそんなことができるとは思いません。もちろん断りました。なのにその人はしつこいんです。ぼくのどこを見てそんなことをいいだしたのか、いまもわかりません。ケツキョク、ぼくはひきうけちゃったんですけど、二十日間の選挙運動をするあいだに、これまで気づかなかったことや、見ようともしていなかったことが、ほんのちょっと見えてきたって思っています。」

しんどう 新藤君や、会ったことのない奥野君、おくのまりちゃんだけじゃない。朝、うつむいて登校してくるやつがいた。昼休みにひとりぼっちでさみしそうにしているやつもいた。

「学校のどこにも居場所が見つからない人、学校に来られない人もいます。友だちのことで心をいためている人も、友だちをキズつけてしまったのではないかと自分をせめている人もいます。楽しいはずの休み時間を、つまんなそうにしている人もいます。」

いつのまにか、みんなの視線がやわらかくなった。「ウ」

「学校は、楽しいところじゃないといけないと思います。楽しいっていうのは、つながることです。となりのヤツと、そのまたとなりのヤツと。学年に関係なくつながりあえる。それがオレが思う楽しい学校です。」

優の顔が見える。良介と仁田の顔も見える。

オレが目をやると、三人はそれぞれうなずいた。「エ」

「そりゃあ勉強もだいじです。でも勉強だけならどこでもできるでしょ。学校って、あそんだり、友だちとすごしたり、先生に説教されたり……って、説教はできるだけだけさけたいけど。学校に行くのが楽しい。そんな場所じゃなきゃいけない。つか、オレはそういう場所にしていききたいと思っています。」

伝えたい。みんなにオレの気持ちを、オレたちの思いを、ちゃんとことばにして。

「いま、なにをどうすればいいかはわかりません。みんなをグイグイひっぱっていくような児童会長にも、たぶんなれません。だから、もし、オレが児童会長になったら、みんなを助けてください。で、どうしたら楽しい学校になるか、意見を出してください。こまったことがあったら相談してください。解決できることばかりじゃないけど、X。考えるから。ひとりでなやまないで。」

⑥ 大きく息をすいこんだ。

「オレが約束できるのは、一人ひとりの声をだいじにして、一人ひとりの声をつないでいく児童会にすることです。ひとりのヒーローじゃなくて、一人ひとりが主役になれる学校。そういう学校にしたいって、マジで思ってます。」

終わった。ほんとうにこれで終わりだ。あとは、あいさつ。

背すじをのばして、「よろしくお願いします！」って思いきり頭をさげた。

ギャウユーン

「うっ。」

マイクにおでこをしこたま打ちつけ、マイクが悲鳴をあげた。

一瞬シンとして、そのあと大爆笑ばくしょうだった。

腹をかかえて、ヒーヒーいいながらわらいころげているヤツもいる。わらいのなかで、たくさんはくしゅの拍手もおきた。わらいのうずがみんなを、オレをつつんでいく。つながっていく。

(いとう みく『5年2組横山雷太、児童会長に立候補します!』による)

問1 — 線部あゝえのカタカナを、それぞれ漢字に直して答えなさい。

問2 — 

A
---

D
---

 に入る言葉を、次の中から一つずつ選んで、それぞれ記号で答えなさい。(一語一回に限りません。)

ア ドット                      イ パット                      ウ フット

エ ザット                      オ スット                      カ プット

問3 — 線部①「ない」と同じ働きのものを、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 今年の夏はそれほど暑くはない。

イ 何もできない自分がなさない。

ウ 君たちが負ける可能性などない。

エ だれもが本当のことを言わない。

問4 — 線部②「こんな空気」とありますが、どのような空気なのですか。それを説明した次の文の 

1
---

2
---

 に入る言葉を

答えなさい。

ただし、 

1
---

 は十三字、 

2
---

 は十字で文中からぬき出して、それぞれ答えなさい。(句読点なども一字に数えます。)

1	話し方をする牧野の、説得力のあるスピーチにみんなが引きこまれ、雷太にとっては	2
	な感じしかなかった。	

問5 — 線部③「ざわめきがおきる」とありますが、みんなは何に対してざわめいているのですか。その内容としてふさわしいものを、次

の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 素晴らしいスピーチをくり広げた牧野と比べて、雷太の始めたスピーチがあまりにも準備不足でいい加減だったこと。

イ 雷太が、児童会長選の大事なスピーチの最中なのに、自分の緊張をほぐすために笑いをとろうと、ふざけ始めたこと。

ウ 児童会長になるために立候補した雷太本人が、選挙のスピーチで児童会長の仕事について否定的な発言をしたこと。

エ 言葉づかいこそ悪いものの、本音を全く包みかくさない雷太のスピーチが牧野のスピーチより強い感動をさそったこと。

問6 — 線部④「学校をかえてみないか」とありますが、雷太はスピーチをしている今、どのような学校を理想だと考えていますか。それが述べられている部分を文中から二十八字で探し、**最初と最後の五字ずつ**をぬき出して答えなさい。(句読点なども一字に数えます。)

問7 — 線部⑤「優が楽しげな顔をしてうなづく」とありますが、その理由として**ふさわしいもの**を、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 雷太が急にテンパってまったく予定にないことをスピーチ出したことで生じた不安を打ち消したいと思ったから。

イ 雷太の視線の送り方や間のとりかたがいつもと変わっていないことを確認して安心したのもしく感じているから。

ウ 雷太の様子はいつもと同じなのに何を言っているのかわからないのが面白くてもっと話を聞き続けたくなくなったから。

問8 

X
---

に入る言葉として**ふさわしいもの**を、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア オレたちはヒーローになれるから

イ オレたちの思いを聞いてほしいから

ウ オレたちが教えてあげるから

エ オレたちもいっしょになやむから

問9 — 線部⑥「大きく息をすいこんだ」とありますが、この時の雷太の気持ちとして**ふさわしいもの**を、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 一生懸命冷静さをよそおいながら、けんめい逆転するためにはスピーチの最後になんとかして大爆笑を取りたいという気持ち。

イ 今からでも全員をグイグイひっぱっていくような児童会長にならなければならない、と身がひきしまるような気持ち。せいっぱい

ウ あと少しで終わりだから、自分の話をきちんと聞いてくれる人たちに自分の思いを精一杯届けたいという気持ち。

エ スピーチにかなりの手ごたえを感じており、このままいけば自分が児童会長になれるのではないかと期待する気持ち。

問10 次の一文は、文中の「ア」も「エ」のどこに入りますか。一つ選んで、記号で答えなさい。

ヤジを入れた一組の男子も口を閉じている。



① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

我が家の裏では巨木が枯れて日当たりの良くなった地面に、たくさん山野草や若木がメを出している。アカメガシワやカラスザンショウ、タラノキなどの成長の早い陽樹がどんどん育っている。雨の多い日本の森では、太陽の光さえあればこうやって木は勝手に生えてくる。これまで休眠状態だった種子が活動を始めたのである。コナラやクヌギの幼木もその隙間に顔を出す。僕が毎年獲っているおかげか、シカによる食害もまだましだ。このあたりの森はゆくゆくは照葉樹林へと遷移していくと言われているが、自然な移り変わりの始まりだ。旧里山林のアンバランスな林が、多種多様な木が混在する雑木林へと戻ろうとしているとも言える。

注 枯死木にはおびただし数のキノコが生え、幹の上の方ではキツツキが熱心に昆虫をほじくっている。倒れた木の下はイノシシに掘り返され、どうやらカブトムシの幼虫を食べているようだ。みんなナラ枯れを受け入れ、利用している。僕も裏山の枯死木を切り出してきてはせつせと薪作りをしたり、キノコ栽培のための原木に使っているが、していることは彼らと似たようなものだ。

キクイムシにやられても生き残っているドングリの木もたくさんある。横の木が枯れたらそのうち枝ぶりが良くなってドングリのなる量も増えてくるだろう。自然が自らバランスをとろうとしているなんて言うときれいごとaに聞こえるかもしれないが、在来種のキクイムシが増えるにはそれなりの理由があるはずだ。

利用されなくなってしまった現在の巨木が林立する里山林を、この現状のまま維持するのは無理がある。放置され続けてきたところに起きたナラ枯れは防ぐべきものなのだろうか？ ナラ枯れは必然的なもので、この変化を受け入れたうえで、利用していくというのが、今あるべき人間と森とのかわり方なのではないだろうか。現代の便利な世の中で、かつてのような里山林の利用はもう現実的ではない。薄暗い奥山の人工林の問題も含め、人間と森との新たな付き合い方を模索すべきダンカイbに来ているのだろう。

③ ドングリの多い山がすなわち良い山ではない。猟を始めた二十代の頃、裏山にドングリの巨木がたくさんあるのがうれしかった。典型的な旧里山林だったそこは、イノシシが頻繁に訪れる最高の猟場だったし、他の動物にとって豊かな山だと思っていた。日当たりを良くしてたくさん実がなるように、リョウブやヒサカキ、ソヨゴなどの木を間伐して薪にしていった。

しかし、ニホンミツバチをかうようになって、伐採した樹種がみんなミツバチにとっては大切な蜜源だということを知った。森林性のニホンミツバチは四季折々の森に咲く小さな花に集まって花粉や蜜を集めていく。ミツバチが豊かに暮らすには、多種多様な「雑木」の林でなくてはならないということに、そのとき初めて気づかされた。僕の「豊かな森」づくりのための間伐はなんともアサはかな発想だった。

A

それは典型的なナラ枯れを誘発する行為だった。ひとりよがりな森の改変は必ずしっぺ返しを食う。

自分が獲物えものとしない鳥やけもの、虫たちの視点も忘れてはいけない。受粉昆虫が減れば森の草木の活性は失われるし、虫を餌とする鳥や小動物も減る。狩猟しゅりょうだけでなく、溪流魚や山菜、キノコ、果実などの森のめぐみを一年を通してバランスよく利用する暮らしを続けてこそ、豊かな森林とはどういうものなのか理解できるようになるのだろう。そんな

X

をミツバチに教えられた。よく「④ 猟師は森の

番人」などと言われることがあるが、そんなことはない。猟師の知っている山や動物の生態はある一面でしかない。林業家や里山ボランティアの方が詳しいこともたくさんあるし、研究者や昆虫・野鳥の愛好家もそれぞれ専門的な知識を持っている。多様な人が山を必要として暮らすのが山を守ることにつながる。

田舎いなかで勝手に生えてきて厄介者やっかい扱いあつかいされるカラスザンショウという木がある。幹にはトゲがあるし、サンショウと言うものの、実は人間の

食用には向かない。だいたいカラスとかイヌとかいう名前を植物につけるのは人間があまり価値を見出していない証しょうこ拠だ。

B

、ミツ

バチなどの訪花昆虫にとっては花の少ない夏に咲く貴重な蜜源植物であり、その実は野鳥の餌になる。森の中で大木に育つカラスザンショウの豊富な葉っぱを食べて、アゲハチョウの幼虫がすくすく育っていく。

いろんな生き物とのつながりを意識して、実際に森に入って暮らしてみないと分からないことはたくさんある。動物の命を奪うばったり、木を切ったりすることは自然を壊こわしているようにも思えるかもしれないが、⑤ 僕は本当に自然を破壊するのは、森とのかかわりもないままに自然保護だ管理だと言っている人たちだと思っている。

注 遷移………移り変わってゆくこと。

(千松 信也『けもの道の歩き方 猟師が見つめる日本の自然』による)

里山林……住民の生活と密接に結びついている森林のこと。

枯死木……枯れきってしまった木。

ナラ枯れ……キクイムシが媒介したカビ菌により木が枯死する、伝染性の病気。

問1 —— 線部あゝえのカタカナを、それぞれ漢字に直して答えなさい。

問2 —— 線部 a 「きれいごと」・ b 「典型的な」の文中での意味としてふさわしいものを、次の中から一つずつ選んで、それぞれ記号で答えなさい。

a 「きれいごと」

- ア 話の核心をついた的確な表現
- イ 整えて上手に言い過ぎた表現
- ウ 大した根拠のないあやしい表現
- エ 実情にあわない上辺だけの表現

b 「典型的な」

- ア 同じような例が他に存在しない
- イ 本質や特徴をよく表している
- ウ 優れている点ばかりが目につく
- エ 似たようなものがたくさんある

問3 —— 線部①「変化」と同じ成り立ちになっている熟語を、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 増減
- イ 送信
- ウ 深夜
- エ 学習

問4 —— 線部②「人間と森との新たな付き合い方」とありますが、「僕」は具体的にどのようなように付き合っていますか。「ナラ枯れ」という言葉を必ず使って、**五十文字以内**で答えなさい。(句読点なども一字に数えます。)

問5 —— 線部③「ドングリの多い山がすなわち良い山ではない」とありますが、「僕」はどのようなものが「良い」と考えていますか。文中から**十一文字**でぬき出して答えなさい。(句読点なども**一字に数えます**。)

問6 

A
---

・

B
---

に入る言葉を、次の中から一つずつ選んで、それぞれ記号で答えなさい。(一語一回に限りません。)

- ア そして
- イ しかも
- ウ すると
- エ つまり
- オ しかし
- カ たとえば



二 次の1～10の（ ）に入る漢字一字を入れ、下の意味に合うように慣用句やことわざを完成させなさい。

- 1 雨降って（ ） 固まる……悪いことがあった後、かえって状況じょうきょうが良くなること。
- 2 飛んで火にいる夏の（ ） ……自分から災いの中に飛びこんでいくこと。
- 3 さわらぬ（ ） にたたりなし……余計なことをしなければ災いわざわを受けないということ。
- 4 猿さるも（ ） から落ちる……上手な者でも失敗することがあるということ。
- 5 （ ） も蓋ふたもない……表現が直接的すぎて味気がないこと。
- 6 つめに（ ） をともす……貧しく苦しい生活をする事。
- 7 （ ） に衣着きぬせぬ……遠慮えんりよせず思ったことをずけずけ言うこと。
- 8 （ ） より証拠しょうこ……理屈りくつを言うより証拠を示す方が話が早いということ。
- 9 三つ子の魂たましい（ ） まで……幼い頃ころの性質は一生変わらないこと。
- 10 （ ） とすっぱん……比べ物にならないほどちがいが大きいこと。